

高等院校外语专业四· 八级考试辅导丛书

丛书主编◎孙成岗

日语专业 八级考试

阅读篇

总主编◎孙成岗 李先瑞

本册主编◎魏丽华 李倩



大连理工大学出版社

高等院校外语专业四·八级考试辅导丛书

丛书主编◎孙成岗

日语专业 八级考试

阅读篇

总主编◎孙成岗 李先瑞

本册主编◎魏丽华 李倩



大连理工大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

日语专业八级考试. 阅读篇 / 魏丽华, 李倩主编
— 大连 : 大连理工大学出版社, 2014. 10
(高等院校外语专业四、八级考试辅导丛书 / 孙成
岗主编)
ISBN 978-7-5611-9546-8

I. ①日… II. ①魏… ②李… III. ①日语—阅读教
学—高等学校—水平考试—自学参考资料 IV.
①H360.42

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2014)第 216354 号

大连理工大学出版社出版

地址:大连市软件园路 80 号 邮政编码:116023

发行:0411-84708842 传真:0411-84701466 邮购:0411-84703636

E-mail:dutp@dutp.cn URL:http://www.dutp.cn

大连住友彩色印刷有限公司印刷 大连理工大学出版社发行

幅面尺寸:185mm×260mm 印张:9.25 字数:211千字
印数:1~4000

2014年10月第1版 2014年10月第1次印刷

责任编辑:于洋 责任校对:苏阳 李昕宇 杨书

封面设计:李雷

ISBN 978-7-5611-9546-8

定 价:20.00 元

总序

2002年,教育部高等学校外语专业教学指导委员会开始在我国高等院校组织实施本科日语专业四、八级考试。这是迄今为止我国国内客观、公正评定日语能力的权威性考试之一。考试实施以来,参加考试的院校和考生不断增加,影响日益扩大。有些学校把四、八级考试的通过率作为评价教学质量的重要指标,一些用人单位在录用员工时也加大了专八证书的权重,因此,无论是院校还是考生对这项考试都十分重视。与日本语能力测试(JLPT)相比,专业四、八级考试在测试听力、阅读理解能力的同时,增加了说、译、写等主观要素的测试比重,通过对听、说、读、写、译五大能力的测试,全面考查学生的日语实际运用能力和对日本社会文化的分析理解能力,使考试具有更高的可信度与有效度。

为使考生能够有针对性地进行复习,我院日语专业在大连理工大学出版社的大力支持下,编写了高等院校日语专业四、八级辅导丛书共10册,其中专业四级考试辅导丛书4册、专业八级考试辅导丛书6册,内容涵盖了专业四、八级的各种题型。

本套书是对我院2004年编写、大连理工大学出版社出版的《高等院校日语专业四、八级考试辅导丛书》的全面升级。有的分册对之前的内容进行了大幅删减和增补,有的分册则是另起炉灶,重新编写。四级辅导丛书共4册,包括《文字词汇篇》《语法句型篇》《阅读作文篇》《听力理解篇》;八级辅导丛书共6册,包括《文字词汇篇》《语法敬语篇》《翻译作文篇》《听力理解篇》《阅读篇》《文语法文学文化篇》。该套书的主要特点是:

一、紧贴大纲。日语专业四、八级考试是在教育部高等学校外语专业教学指导委员会日语分委员会的指导下实施的。其指导原则是根据《高等院校日语专业四级大纲》和《高等院校日语专业八级大纲》为依据组织命题,所以本套书的编写原则也是以大纲为指导,不出过分生僻的题目。

二、涵盖面广。内容包括文字、词汇、语法、阅读、听力、翻译、写作、文学、文化、文法、历史、地理等内容,几乎涵盖了日语四、八级考试的全部题型。

三、针对性强。每册书都有对之前考试相关题型的综合分析,在综合分析以往出题倾向的基础上,对相关语言点进行详细讲解并编写模拟试题。

四、练习量大。配有大量的考前模拟练习题,提高考试技能。

五、注释详细。在进行试题分析和考点解释时,努力做到使学习者不仅知其然,还要知其所以然。

六、难易度适中。在配备练习题时,选取的例句难易程度适中,使学习者在复习过程中既能循序渐进学到相关知识,又不会产生畏难情绪。

本套书在编写过程中,参阅了大量国内外学者的相关著述和研究成果,因篇幅所限,文中未能一一注明引用的观点和例句出处,在此谨向相关著者表示由衷的谢意和深切的歉意。

因编者水平所限,书中难免有疏漏和错误之处,敬请各位读者批评指正。

前言

日语专业四、八级考试实施十年来，随着参加考试的院校和考生不断增多，影响力也日益扩大，现已逐步成为衡量全国专业日语教学质量的重要尺度之一。与日语能力考试（JLPT）相比，四、八级考试考查的内容更为全面，不仅有客观选择题，还有主观题，如四级考试的完成句子题和作文题，八级考试的翻译题和作文题等。主客观题的综合考查要求考生具备更高的语言综合运用能力。

较之于专业四级考试的阅读，专业八级考试的阅读更重视考查学生的语言综合能力。这其中不仅包含对日语语言能力的考查，更重要的是对分析能力、逻辑推理能力、语篇驾驭能力等综合能力的考核。

专业八级考试阅读能力考查共分为三项：短文主题阅读（共十篇，每篇长度约200-300字左右，每篇一题）、长文理解阅读（一篇，约1000-1500字，共10题）和完形填空（一篇，约800-1000字，共10题）。针对这三项的考查重点，本书主要分为两大部分：

第一部分为应试指导部分。包括《日语专业八级考试大纲》中有关阅读能力的可量化标准介绍、八级阅读出题倾向与对策分析、真题解答与分析等。

第二部分为实战与分析部分。这是全书的重点部分，共设有十套模拟练习。每套练习均按照考试题型和题量来设计，并附有答案解析与说明。通过针对性的解题思路的分析，帮助学生掌握正确快捷的解题技巧，这是本书的特色所在。

本书在编写过程中，参阅了大量国内外教材与教辅成果，引用了一些日语能力测试和日本国内国语考试的文章，在此谨向有关著者表示由衷的谢意。

本书既可作为日语八级考试阅读部分的必备参考书，也可兼作日语自学者提高阅读能力的辅导用书。

因编者水平有限，书中难免有疏漏和错误，敬请各位读者批评指正，以便进一步修改。

编者

2014年8月

目 录

第一部分 应试指导

一、考试大纲要求解析·····	002
二、出题倾向与对策·····	002
三、真题举例分析（2012年）·····	005

第二部分 实战与分析

一、模拟试题（一）·····	014
答案·····	021
解析·····	022
二、模拟试题（二）·····	026
答案·····	034
解析·····	034
三、模拟试题（三）·····	039
答案·····	046
解析·····	046
四、模拟试题（四）·····	051
答案·····	059
解析·····	059
五、模拟试题（五）·····	064
答案·····	071
解析·····	072

六、模拟试题（六）	076
答案	084
解析	084
七、模拟试题（七）	088
答案	097
解析	097
八、模拟试题（八）	101
答案	109
解析	109
九、模拟试题（九）	114
答案	122
解析	122
十、模拟试题（十）	126
答案	135
解析	135
参考书目	140



第一部分

应试指导

一、考试大纲要求解析

日语专业八级考试(NSS-8)是国内迄今为止日语专业在读学生最高级别的考试,是对词汇、语法(包括文语)、国情知识与文学知识、阅读、翻译、作文、听力等综合能力的全面测试。

《日语专业八级考试大纲》规定:考试的目的是检查《高等院校日语专业高年级阶段教学大纲》的执行情况,特别是教学大纲所规定的八级水平所要达到的综合语言技能和交际能力,以促进大纲的贯彻执行,并进一步提高教学水平。

《日语专业八级考试大纲》明确指出,为了考核学生运用语言技能的综合能力,在充分考虑到科学性、客观性和可行性的基础上,八级考试采用了既有主观题又有客观题、既有单项技能测试又有综合能力测试的考试形式。其中,主观题占40%,客观题占60%。这样的考试形式,既可以充分检验学生对日语的掌握情况,同时又不仅仅停留在基本的生活日语的范畴内,通过测试,可以了解学生日语知识整体水平。相对于单纯以客观题为考试形式的日语能力测试(JLPT)来说,八级考试的效力有了很大的提升。

一般说来,学外语就是培养听、说、读、写、译的能力。对阅读理解能力的考核是考查学生语言综合能力的一个重要手段。按照《日语专业八级考试大纲》的要求,阅读理解要求学生掌握所读材料的主旨和大意,了解并熟悉与主旨有关的事实和细节,从上下文正确判断并确定生词的意义,能运用逻辑推理、引申和联想,正确理解作者的观点和意图。阅读理解是日语专业八级考试中的重要组成部分,也是八级考试中难度较大的一个部分。

二、出题倾向与对策

1. 阅读题型分析

八级考试中,对阅读理解能力的考核分为三项:短文阅读、长文阅读和完形填空。阅读理解能力的考核均采用选择题的形式,共30分。

短文主题阅读共10篇小文章,每篇200-300字左右。每篇1题,每题1分。重点考查学生对文章主旨的把握,即对文章整体理解和概括的能力。

长文阅读一般为一篇1000-1500字左右的文章,共10个小题,每题1分。长文阅读的考点有:文章主旨、指代关系、上下文之间的逻辑关系、段落关系、作者观点、画线部分的语意等,有时也包括少量的词汇题,综合性较强。

完形填空一般为一篇长度800-1000字的文章。共10小题,每题1分。完形填空是综合性语言测试题,它不同于单纯的语法或词汇测试题,而是要求学生从文章的整体内容出发,借助词汇、句子结构、文化背景、上下文等来做出选择,分析前后句的关系是完形填

空的重点。填空部分既有常见的接续词和接续助词、指示词，也有名词、形容词、动词等，甚至还包括句型填空。

2. 主要题型解答技巧

综观以上三种题型，无论是长篇还是短篇，是单纯的完形填空亦或是多样化的理解选择，对于综合阅读能力的考查可谓万变不离其宗。

1 主旨题

主旨题就是归纳全文中心思想的题。此类题可以通过寻找文章关键词、特别是关键句的训练来实现提高答题能力的目的。文章类型不同，中心句在文章中的位置也就不同。一般情况下，文章的主题在开头和结尾出现的频率比较高。也就是所谓的“头括型”和“尾括型”的文章比较多。另外，短文阅读中主题句在开头出现的几率比较高，而长文阅读中主题句在结尾出现的几率更高一些。但是，这并不是绝对的规律。有的文章全文并没有明确的主题句，其中心思想包含在各个句子中。在这种情况下，就需要把所有已知的细节综合起来，进行逻辑推理，概括归纳出主题句。另外，要注意文章中反复出现的同一个词，这些词即关键词，往往与文章的主旨有着密切的联系。在应试练习中，养成寻找关键词和关键句的习惯，有助于迅速而准确地把握作者的主要观点。

2 指代题

此类题目，不外乎对「こそあ」类指示词意义的考查。此时需要谨记“就近原则”。一般指示词所指代的内容就包含在临近的上下文中，不会相隔太远。重要的是仔细阅读上下文，理清上下文之间的逻辑关系。一般情况下「こ～」所指的内容在后的情况比较多，而「そ～」所指的内容大部分在前。另外，作者对「こ～」所指的内容往往有一种心理认同感，就像「あ～」所指的内容有一种共同性和公共性一样。了解此类词的语法意义的同时，更要体会它们的情感意义。另外，使用指示代词的目的就是避免重复，找到认为正确的内容后一定要把其代入句子中重新进行验证，确认句子语义是否通顺，这是保证解答正确的必经之路。

3 逻辑题

此类题一般考查的是学生对上下文逻辑关系的理解，换句话说就是对作者思路的把握。解题重点在于抓住文中的接续词和接续助词，理清作者思路，把握文章结构。

一要特别注意「すなわち」「つまり」「要するに」「このように」等归纳性的词语。这些词语具有概括性的功能，其前后内容是一致的，可以通过这些词语预测下面的内容。反过来说，在考查接续词的题目中，如果前后内容表达的意思相同，或者后面是更为概括性的内容，则说明此处应为归纳性的接续词。

二要特别注意「しかし」「だが」等表示转折意义的接续词。转折，即前后内容相反。作者经常用从反面论述的方法来证明自己的主张，其大致的结构例如「一般論→逆接→筆者の見解」「一般論→逆接→一般論に対し筆者が問題点・疑問点を指摘→筆者の見解」等。同样，在考查接续词的题目中，如果前后内容相反，则可以考虑这些表示转折意义的接续词。

三要特别注意「だから」「ゆえに」等表示顺接意义的接续词。这些词语都是对文章内容的进一步说明与解释。尤其在说明文与议论文中，就是在说明自己主张的正确性或说明示例的正确性。

4 理由题

有一类题目考查的是作者提出某观点的原因和理由。这类题目通常使用一些表示因果关系的逻辑词语提问，例如下列形式：「なぜ…ですか」「どうして…言えるのですか」等。这类题目的答案通常可以在以下四处寻找：

- ①反复强调的句子。
- ②叙述作者主张的前后句。
- ③含有「から」「ので」「ため」「というのは」等表达的句子。
- ④以表示说明原因、理由的接续词开头的句子，如「なぜなら」「というのは」等。

5 语意题

此类题主要考查学生对材料中出现的一些熟悉或不熟悉的单词或某个概念性含义的理解。在特定的语言环境中，作者常用下定义、举例、解释以及生活常识等来说明某一词义或句义，所提问的词义或句义可能与其本意并不完全相同。因此，解答这类题目的关键在于是否能在理解上下文的基础上准确判断该词或该句在文中的含义。

6 语法题

这类题是从语法的角度进行考查，例如陈述副词、句型等。陈述副词要注意句尾有一定的呼应形式。例如：与否定相呼应的「ぜったい」「けっして」「かならずしも」「ぜんぜん」「いっこうに」等；与「か」呼应表示疑问或反对的「いったい」「どうして」「はたして」等；与假定相呼应的「もし」「たとえ」「いったん」等；与希望和愿望呼应的「ぜひ」「どうか」「なんとか」等；与推测呼应的「おそらく」「どうやら」「たぶん」「いずれ」等；与「らしい」「ようだ」「そうだ」等呼应的「いまにも」「いかにも」「さも」「ちょうど」「まるで」等；表示预测结果的「いよいよ」「ついに」「とうとう」「どうにか」等。

另外，要熟记句型，从形态到接续，一定要记得准确。对于近似句型要理解其区别。有些句型翻译成汉语后虽然一样，但其内在意义有着本质的区别。例如「はず」と「べき」都可以翻译成汉语的“应该”，但实际语义却有着天壤之别。

除了以上根据不同题型实施不同的对策外，还有以下几点需要注意：

①一切要以文章为出发点，千万不能主观臆想，凭空想象，随意揣测，更不能以自己的观点代替文章中作者的观点。

②注意把握文章的题材和体裁，在阅读过程中保持清晰的思路，顺着文章的脉络读下去。

③注意阅读理解中的干扰项，主要包括脱离原文、以偏概全、断章取义、扩缩范围、偷换概念、正误并存等。

三、真题举例分析（2012年）

下面我们以2012年的真题为例，对这三种题型进行详细分析和解读。注意，题号为真题中的原题号。

1. 短文阅读

61. すると、大学のブランド神話はとうに崩壊しているのではないか。あの神話が価値をもっていたのは、その大学を出れば一流企業への入社に有利で、いったん入ってしまえば、終身雇用で安定した生涯が保証されていたからなのだ。現在では、入社試験では大学の名に力はなく、終身雇用制はほとんど崩壊している。新卒社員の三分の一が、三年以内に最初に入った会社を辞めてしまう時代なのだ。

問：文章の内容をよく表しているのは次のどれか。

- 有名な大学を卒業すればみな一流企業に就職するが、その三分の一が三年以内に辞めてしまうようになった。
- 有名な大学を卒業すれば一流会社への入社に有利で、生涯安定した生活が送れるという保証がなくなった。
- 有名な大学を卒業すれば安定した生涯が保証されるということが現実のことになった。
- 社会が大学卒業者を必要なくなっているので、就職することが難しくなった。

解 析

文章的第一句话就是整段话的关键句。A项的错误在于「みな一流企業に就職する」，文中只提到「一流企業への入社に有利」。B项正确。C项的错误在于现实已经改变。D项完全不符合文章内容。

62. 僕が相撲に興味を持ったのはいつごろのことであろうか。父が大の相撲好きとあって、物心が付いたときから力士の名前を口にし、テレビの前で応援していたものだ。

僕は強い力士が好きだった。大鵬のファンであった。とにかく大鵬が強かった。大鵬の引退後、史上最強と言われた北の湖が現れたが、僕の心の中では大鵬が強かった。強さと容姿を兼ね備えた千代の富士が出てきたとき、確にかっこいいと思ったが、まだ僕の思う強さではなかった。そして僕と親子ほど年の違う貴乃花が出てくるまで、大鵬に勝る力士はもう現れないと思っていたのだ。今やその貴乃花も引退してしまい、さみしいかぎりだ。

- A. 筆者は大鵬が一番好きだった。 B. 筆者は北の湖が一番好きだった。
C. 筆者は貴乃花が一番好きだった。 D. 筆者は千代の富士が一番好きだった。

解 析

这段话的中心句有两句：「大鵬のファンであった」「貴乃花が出てくるまで、大鵬に勝る力士はもう現れないと思っていた」。作者首先表明了自己对大力士大鵬的喜爱。而北湖的出现并没有改变作者的看法。至于千代富士，在作者眼中，虽然外型不错，但不够厉害。直到贵乃花出现，作者心目中的第一才从大鵬变成了贵乃花。作者对四位大力士分别作了评判。答案为C项。

2. 长文阅读

我々を取り巻く環境について知識を得る日常の仕方は経験である。我々は先ず経験によって知るのであって、経験は知識の重要な源泉である。だが経験を単に知識の問題と見ることは種々の誤解に導き易く、それによっては経験的知識の本質も完全に理解されないであろう。経験を唯一の基礎とすると主張する経験論の哲学が、経験を心理的なもの、主観的なものと考えたのも、①それに関連している。知識の立場においては、経験の主体即ち知るものは心或いは意識であって、経験はそこに生じそこに現れるものと考えられるであろう。しかしながら現実においては、経験は何よりも主体と環境との②行為的交渉として現れる。経験するとは自己が世界において物に出会うことであり、世界における一つの出来事である。経験はもともと行為的なものであり、経験によって知るといっても行為的に知ることである。経験するとは自己が環境から働きかけられることであって、経験において自己は受動的であるといわれるであろう。経験論の哲学が感覚とか印象などを基礎とするのも、そのためである。このように③受動的状態を重んじるのは、対象を自己に対して働かさせようとするものであって、経験論の動機も実証的或いは客観的であろうとするところにある。

しかし、経験はつねに主体に関係付けて理解される。経験は経験するものの経験であって、経験する主体を離れて経験はない。経験を主観的なものとした経験論は、この主体

を単なる意識と考えることによって経験を心理的なものとしたばかりでなく、さらにその意識を単なる受動的なものと考えた。しかも実は、単に受動的であっては客観性に達することも不可能であったのである。経験は主体と環境との関係として行為の立場から捉えられねばならぬ。④行為である以上、環境から規定されると同時に環境に働きかけてもいる。我々の行為はただある意味においてのみ環境の刺激によって惹き起されるに過ぎず、一方、それが我々の活動を惹き起こす環境を作り出すことを助けるのである。刺激によって生ずる反応は同時に刺激を変化する。このように、経験する主体は単なる環境に対して反応するのではなく、むしろ⑤環境プラス主体に対して反応するのであり、客観的状况といわれるものも実は単に客観的でなく、同時に主観的である。

我々は経験によって環境に適応していく。環境に対する我々の適応は、「試みと過ち」の過程を通じて行われる。この試みと過ちの過程が経験というものである。経験するというのは単に受動的な態度でなく、試みては過ち、過っては試みるという経験過程のことである。経験という言葉は何か過去のもの、すでに行われたこと、先例に対する引き合せなどと理解されやすい。⑥経験論の哲学も経験を「与えられた」もののように考えた。しかし経験は試みることとして未来に関係付けられている。試みるというのは自主的に、予見的に行うことであって、このような経験には知性が、その自発性が予想される。⑦自発的な知性がそこに働くのでなければ、主体的に試みるということはない。経験は試みることとして直接的でなく、すでに判断的であり、推論的であるとさえいい得るであろう。過つことによって我々の知識は本能のように⑧直接的なものでなく反省を経たものになってくる。このように、経験は試みと過ちの過程を経て、主体と客体とが相互に否定し合う関係を形成し、対立の統一として⑨経験的知識は成立するのである。

71. ①それは何を指しているのか。

- A. 経験は日常の仕事を通じて得ているということ
- B. 経験的知識の本質が完全に理解されないこと
- C. 経験は経験する主体の心や意識によること
- D. 経験は本人の知識の重要な源であること

解 析

按照就近原则，上文讲到的是，仅仅将经验视做知识的问题的话，容易引发各种误解，导致无法完全理解经验性知识的本质。本句接着就讲到经验论哲学的问题。按照上下文的逻辑关系，答案为B项。

72. ここに言う②行為的交渉とはどんな意味であるか。

- A. 世界で物に出会うこと
B. 生じたり現れたりするもの
C. 主体的に知る心を持つこと
D. 世界において発生する出来事

解 析

本题属于语意题。在一个特定的语境中，用一个看起来很常见的词来表达一个特殊的意思。仔细阅读前后文，后文其实已经对「行為的交渉」做了明确的说明。答案为A项。

73. 経験論の哲学が③受動的状態を重んじる理由を正しく説明しているものはどれか。

- A. 経験を客観的にするためには、経験する主体が能動的することをできるだけ排除する必要があるからである。
B. 働きかけられ、環境から規定される受動的状態にある経験でなければ、客観的なものになり得ないからである。
C. 経験とは、自己が環境から働きを受けて心や意識に生じ現れるものなので、本来受動的なものだから。
D. 経験論の哲学が基礎とする感覚や印象などは、環境の刺激を受けて受動的に生じるものだからである。

解 析

题目问的是“经验论哲学重视被动状态的原因”；A项明显与文章不符；B项在文章中并未提及；C项正确；D项中句子表达的是“感觉与印象等是在外界的刺激下被动发生的”。根据上文，经验论哲学以感觉与表象为基础正是因为个人在经验上的被动性。因此，D项是表象，而不是原因。

74. 行為である以上の意味をもっとも正しい説明している言葉は次のどれか。

- A. 行為であればこそ
B. 行為であればあるほど
C. 行為であるかぎり
D. 行為であるからには

解 析

本题应该算是语法题，对「以上」所表达的语法意义的考查。答案为D项。

75. ⑤環境プラス主体に対して反応するとはどういう意味か。
- A. 環境に刺激に対して受動的に反応するだけでなく、主体が意思を持って積極的に反応するという意味
 - B. 経験とは経験する主体を離れて経験はないというので、環境プラス主体に対して反応するという意味
 - C. 環境の刺激によって惹き起こされるだけでなく、引き起こす環境を作り出すことを助けてもいるという意味
 - D. 環境とは客観的状况とよく言われているが、実はそれは単に客観的でなく、同時に主観的でもあるという意味

解 析

注意本句话的前文「刺激によって生ずる反応は同時に刺激を変化する」。在本段落中，作者提出经验是一种行为，是主体与环境之间的相互行为。作为经验主体，不仅对环境刺激产生反应，同时也在创造引发刺激的环境条件。答案为C项。

76. ⑥経験論の哲学も経験を「与えられた」もののように考えた。しかし経験は試みることとして未来に関係付けられているとあるが、その解釈として最も適切なものはどれか。
- A. すでに発生したこととこれから発生することの違い
 - B. 受動的で体験したことと予見的で試みることの違い
 - C. 受動的に受け入れることと発展的に作り出すことの違い
 - D. 先例にあり引き合いに出せることと未経験のことで前例のないことの違い

解 析

作者认为经验论哲学只将经验视作过去被动的得到，但实际上经验通过“试行”而带有一定的未来性。答案为B项。

77. ⑦自発的な知性を内容規定的に説明しているものは次のどれか。
- A. 自主的で積極的に行うこと
 - B. 主体的で自主的に行うこと
 - C. 経験的で予見的に行うこと
 - D. 自主的に予見的に行うこと

解 析

上文提到，“试行是一种自主的、预见性的行为”，答案明显是D项。

78. ⑧直接的なものでなくとは何を指しているのか。

- A. 自らすでに経験したもの
B. 受動的に反応するもの
C. 先例に引き合わせるもの
D. 自らが過去に行ったもの

解 析

在「直接的なものでなく」之前有个修饰语「本能のように」，只有B项符合这一条件。

79. ⑨経験的知識とは何であろうか。

- A. 受動的に規定されるものだけでなく、環境の変化を助けてもいるという知識
B. 環境の刺激に反応するものだけでなく、環境の変化を助けてもいるという知識
C. 経験とは経験する主体を離れて経験はないものだから、主体経験に基づく知識
D. 過去のことや先例に引き合わせられるものでなく、自発的な知性にに基づく知識

解 析

作者在文章最后提出，在经历了试行与错误之后，主体和客体之间形成了相互否定关系，经验性知识即主体和客体之间的对立统一。答案为C项。

80. この文章で述べる内容を正しく説明しているものは次のどれか。

- A. 経験を心理的なもの、主観的なものと考えた経験論の哲学は、経験者を受動的な立場に置くことによって主体性を否定し、そして、それによって経験の客観性の獲得に成功している。
B. 主体と環境との行為的交渉として現れる経験というのは、経験主体が環境から働きかけられて規定されると同時に、一方、環境に対して自主的に働きかけてもいるという相互影響的なものである。
C. 主体と環境は相互に影響し合うものであって、経験者が一方的に環境に影響されるのではなく、環境に影響を与えているのである。したがって、経験とは主観的なものであると同時に、客観的なものでもある。
D. 経験に自発的な知性があるというのは、経験者が環境に受動的に反応するものでなく、主体的に試みる存在であるということである。このような経験はすでに反省を経たものになり、主体と客体とが相互に否定し合う関係を形成している。

解 析

通读全文，作者想要表达的是经验是一种主体和客体之间相互否定之后的对立统一。只有D项符合作者的主要观点。